



丸山はるみ いきいき通信 No.15

道政報告 2024年8月号



ホームページ



Facebook



X (Twitter)



Instagram

第2回定例道議会 一般質問

6月18日から7月5日までの日程で第2回定例道議会が開催されました。丸山はるみ道議が一般質問で、宿泊税、地方交通、特定利用港湾問題、国会議員への道の対応等について鈴木知事の姿勢を質しました。

「新幹線札幌延伸 開業延期の事業負担」 自治体に負わせるな

早期開業要請を行うも地
方負担軽減言わない知事

鉄道・運輸機構が5月8日、新幹線札幌延伸の2030年開業が期限未定のまま遅れると発表したのを受け、斉藤国交相に一日も早い開業要請をした鈴木知事ですが、延期に伴う地方自治体の負担金に対する軽減要求は翌日の予算要望の項目にあげただけです。



一般質問に立つ丸山はるみ道議

札幌開業延期沿線自治体への影響深刻

北海道新幹線鉄道整備事業費の道負担は、昨年度までの累計で2、689億円。札幌延伸工事に限っても1、763億4千万円にも上っています。開業時期を示せずにいることで更なる事業費の増加につながり、道と沿線自治体には青天井の負担を求められる可能性があります。丸山道議は「開業も見通せない新幹線の負

担について斉藤国交相にたいし負担軽減を要請しなかったのはなぜか」「事業費の増加と自治体負担増について道民理解は到底得られない。道として際限なく負担金を払い続けるのか」と知事の姿勢を質しました。交通企画監の「毎年度国への要望として地方負担の軽減等に関する要望を行っている。引き続き国や鉄道・運輸機構に地方負担の軽減を求めていく」との答弁に終始しました。

「宿泊税」道民賛否問わぬ鈴木知事

鈴木知事は、2026年4月から宿泊税導入開始を表明しました。「新税の概要」の道案を示し「税の必要性」や「使途」等基本的な事項について方向性を整理したといいますが、そもそも新税導入にあたっての道民理解は、進んでいません。丸山道議は拙速すぎる税導入の鈴木知事の姿勢を質しました

道民意見
軽んじる鈴木知事

道が行った地域説明会では「反対」「どちらかと言えば反対」が事業者で31%、市町村で14・3%です。丸山道議は「合意形成がされているとは言いがたい状況ではないか。道民向けの説明会は一度も開催されておらず、道民に対して賛否は一度も問っていない」と知事の認識を問いました。知事はホームページでの意見募集で道民理解は進んだとの認識で、住民説明会開催について言及を避けました。丸山道議は「道が示した新税の考え



では、観光に資すると言えは際限なく執行が許される。新税を徴収しなければ観光行政が進まないという客観的根拠が示されておらず、新税の目的と使い方についての議論が後景にのびやられていることを厳しく指摘しました。知事は世界が評価する「観光立国北海道」の実現を目指すとしながらも、事業執行に係る客観的根拠については示す事ができず「今後新税の考え方について丁寧な説明をしていく」と述べるにとどまりました。

長谷川参議パワハラ追及～道の責任で全容解明を～

—道の調査は次長級以上のみ—

道は5月28日、長谷川氏との関係について調査結果を公表しました。しかし丸山道議の質問で、知事部局の本庁課長級以上の職員の出張回数と旅費だけと、対象が限定された不十分なもので、国会議員との接触が多い東京事務所が調査対象から外されていることが明らかになりました。丸山道議は再質問、再々質問で「道の調査は威圧的言動に対する全容解明には至っていない」と調査の不十分さを厳しく指摘し「知事が最優先で取りくむべきは国会議員のパワハラから職員を守り抜くことだ」と強調。長谷川氏の威圧的言動に関する全容解明を道の責任で直ちに行うよう強く求めました。

鈴木知事は「職員がハラスメントを受けた場合は、庁内の相談窓口において相談を受け付け、組織として対応していく」と述べるのみで今後の調査については言及しませんでした。

また、丸山道議の質問で長谷川議員が道主催の会議に5年で30件以上と他の国会議員よりも突出して多く出席していることがあきらかにされました。丸山道議の「特定の国会議員がまるで行政を私物化していると言われかねない事態だ。公平性への懸念が払拭されるような対応を講じるべき」との指摘に鈴木知事は「各部局において検討」とひとごとのような答弁に終始しました。



説明不十分なまま特定利用港湾指定

政府は4月1日、全国7道県16箇所、うち道内は石狩湾新港を含む5港湾を「特定利用空港・港湾」に指定しました。

港湾の管理者と円滑利用に関する枠組みを締結し「緊急性が高い場合」に合理的な理由があると認められれば自衛隊・海上保安が柔軟かつ迅速に利用できるように努めるとしています。



道民説明国に丸投げ

鹿児島県等4県9箇所の空港13港湾で、ミサイル攻撃の標的になるなどの不安が解消されないことが得られず、国の市町村への説明不足を理由に22箇所継続審議になっています。

丸山道議は「道は、道民の疑問や不安を解消する丁寧な説明を国に要望しているが、国からどう説明され、知事は納得に至ったのか。道民の理解が得られたと知事は認識しているのか」と問い質すも「道民からの問い合わせに対応する窓口の設置で、不安や疑問の解消に取り組みられているものと考えている」と、国に対応を丸投げする答弁です。

はなはだしく議会軽視

石狩湾新港の管理組合の構成自治体、小樽市・石狩市では事前に議会に説明があったにもかかわらず、北海道議会へはそうした説明がありませんでした。

丸山道議の質問に知事は「6月の定例会で国の考え方や関係自治体の意向を考慮して対応すると示した」と答弁しましたが、これは他会派の議員に対する答弁内容であって議会への説明ではありません。

丸山道議は「答弁と報告を同一視する姿勢、議会軽視も甚だしい」と再質問・再々質問で厳しく追及しました。知事は「国に対し丁寧な説明を求めていく」と、まともな答弁を避ける姿勢に終始しました。

北海道運輸局へ要請 深刻なバス運転手不足 並行在来線経営分離は見直しを

2030年の北海道新幹線の札幌延伸開業延期が明らかとなったものの、その後、開業時期は示せないままです。

日本共産党は6月28日、北海道運輸局において齊藤鉄夫国土交通大臣及び、井上健二北海道運輸局長宛に要請書を手交しました。

要請書の内容は、『当初の2035年開業予定を5年間前倒しした経過と検証を行うこと』『今後の計画と事業費の公表』『並行在来線は存続させること』などです。



要請する丸山道議（右から3人目）

4年ぶり！北海道女性議員協議会総会開催

新型コロナで4年ぶりの開催となった北海道女性議員協議会総会。第68回目の今年度は江別市が会場でした。1952年の第1回目からほぼ毎年開催、参加対象は北海道の女性議員であることのみ。党派も問わず長期に渡る取り組みは余り例がありません。

今回は、札幌市男女共同参画センターの菅原亜都子さんから「ジェンダー平等実現」についての講演が行われました。

菅原さんは、第3期目の内閣を発足したカナダのトルドー首相は、これまで男女同数の内閣を維持してきたと紹介。以前その理由を会場で問われ「もう2015年なのだから」と答えたとし、男女同数は当たり前を実現されるべきとの言葉に、参加者は大きく頷きました。

また若い女性が、社会の閉鎖感から道外へ、さらには国外へ活躍の場を求めているとし、女性が生きにくいままでは人口流出も少子化も解決しないと話すと会場から賛同の声が上がりました。

～市内視察は驚きの連続～

二日目はオプションツアー。まず江別市が改修を行った旧町村農場です。資料館では



江別河川防災ステーション

農場の歴史を学び、お子さんが遊べる広間に、庭での散策と多くの市民に利用されていました。

次は江別河川防災ステーション。過去に繰り返された河川氾濫。この施設の開業は2002年、災害時の復旧活動拠点としてはもちろん、普段から災害学習やイベントで活用できます。

最後の江別セラミックアートセンターではこの地で製造されたレンガが、北海道の近代化に寄与した歴史を学習。

行政の取り組みから文化まで、貴重な学びとなりました。

集会で道政報告しました



広がりました「海岸線駐車禁止区域」

昨年、蘭島地域の皆さんから「海岸線の駐禁区域広げて」との声が寄せられ、小樽市や警察に交渉しました。

要望通り禁止区域が広がり、スッキリした通りになっています。

